（高齢者施設向け）

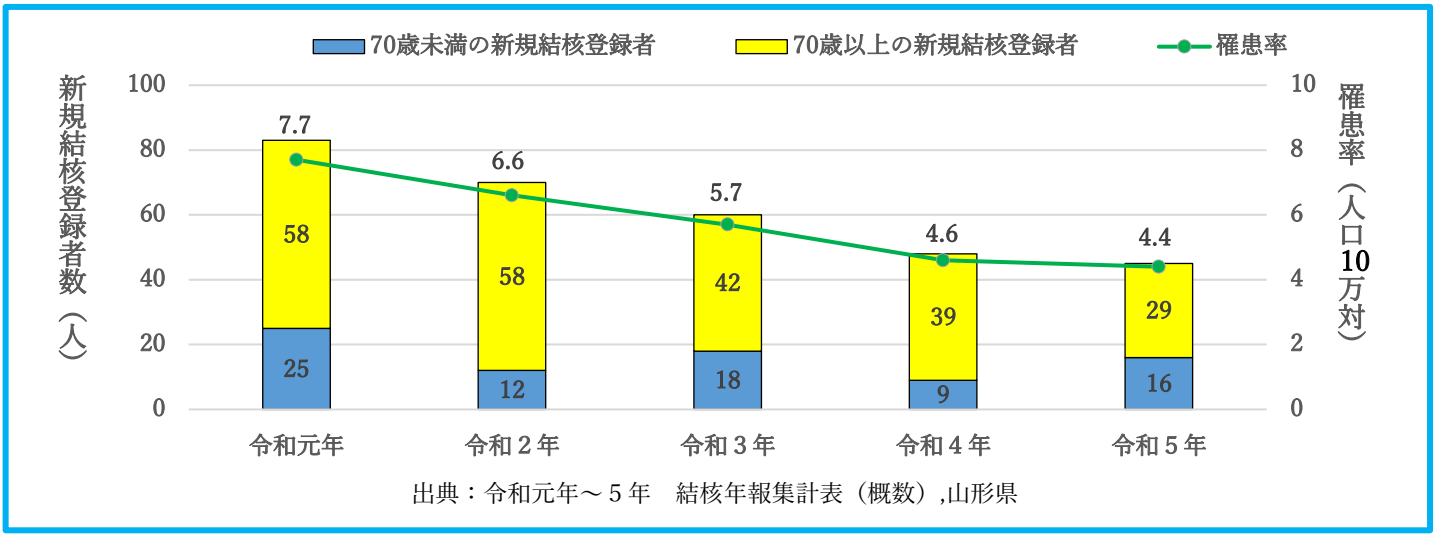
最上保健所　結核通信

発行　令和７年９月８日
担当　最上保健所　保健企画課
　　感染症対策担当
電話　0233-29-1268（直通）

９月 24 日～９月 30 日は
結核・呼吸器感染症予防週間です

山形県の新規結核登録患者数と罹患率の推移

※罹患率：１年間の新登録結核患者数を
人口 10 万対で表したもの



出典：令和元年～５年　結核年報集計表（概数）,山形県

結核患者は減少傾向にありますが、令和5年に山形県で新たに診断された結核患者は45人で約6割が70歳以上の方でした。
結核は保健所に届出が必要な感染症の中で最も多い感染症です。

結核は過去の病気ではありません！！

結核とは

主に空気中に漂う結核菌を吸いこむことによって感染し（空気感染）、肺の中で炎症が起きる病気です。
感染してもすべての人が発病するわけでなく、健康であれば免疫の働きによって発病することなく過ごすことができます。

＜感染と発病について＞

感染とは…
・結核菌が体内に入った状態です。
・免疫力で菌が抑えつけられているので、症状はなく、周囲の人にうつす心配もありません。

発病とは…
・体内の結核菌が増え、肺など体の一部に炎症を起こし、発熱や咳・痰といった症状が出た状態です。
・発見が遅れると、周囲への感染性も出てきます。

＜症状＞

・２週間以上続く咳・痰・発熱・血痰・胸痛
・全身のだるさ・寝汗・体重減少など

＜結核の発病リスクが高い人＞

・糖尿病、人工透析を行っている
・胃潰瘍、胃の切除をした人
・HIV 感染や免疫の弱い人
・結核流行国から来た外国人出生者
・ステロイドホルモンや抗がん剤を使用している人

高齢者の結核の特徴

・高齢者は免疫力や身体機能の低下から発病しやすく、発病しても咳や微熱などの特徴的な症状がないこともあるため、結核と診断されるまでしばしば時間がかかることがあります。
・他の疾患の経過観察等を目的として実施した胸部Ｘ線検査等で結核の診断につながるケースが多くなっております。
・発見が遅れることにより、集団感染となることがあるため、高齢者施設では注意が必要です。

高齢者の結核の早期発見のために

①サービス利用開始時、定期健康診断時の健康チェック

・健康管理のための情報として、結核等の既往歴や治療中の病気を確認しましょう。
・少なくても年に１回は、健康診断やかかりつけ医療機関で胸部Ｘ線検査を受けましょう。

②日頃の健康チェック

・毎日の健康観察により、利用者の体調変化を見落とさないようにしましょう。
・下記の症状が２週間以上続いたり、利用者の健康状態で気になった時は、速やかにかかりつけ医療機関等を受診し、結核の可能性を含めて相談しましょう。

＜健康チェックのポイント＞

・なんとなく元気や活気がない　・微熱（平熱よりも高い状態）が続く
・食欲低下、体重減少、倦怠感　・咳、痰、胸痛、呼吸のしづらさ

施設における日々の対応

①感染対策の徹底

・職員、利用者、見舞いの家族等も含めて、咳エチケットの徹底を図りましょう。結核だけでなく風邪やインフルエンザなどの呼吸器疾患の感染予防にもつながります。
・こまめな換気、マスク着用、手洗い・うがいといった、基本的な感染対策の徹底にも努めましょう。

②定期的な話し合い

・突然、利用者が結核疑いと言われても、あわてず対応できるよう事前に嘱託医を交えて対応について検討したり、感染対策マニュアルの作成または見直しを行いましょう。

気になることや心配なこと等がありましたら、
下記の連絡先までお気軽にお問い合わせください。
【担当：最上保健所　保健企画課　感染症対策担当】
住所：新庄市金沢字大道上 2034
TEL：０２３３－２９－１２６８